

## 「全鍍連」 2018年2月号 巻頭言

全鍍連 常任理事 東 佳範

「第3コーナーを曲がって」



巻頭言を書くに事になり過去に全鍍連に寄稿したものを調べた。そこで21世紀年頭の辞という文章が出てきた。文面からして2001年に寄稿したものであろう。

そこに記されているものは21世紀を迎えてSF小説に語られた未来と現実の乖離、環境問題への危機感、更には当時歳男であった自分の決意が書かれてあった。今となっては少し居心地が悪い気持である。

さて還暦をはるかに過ぎ高齢者を言われる歳を目前とした今日この頃の雑感を語ってみよう。

60代半ばになって気分的には若いつもりであるが最近足踏ん張りが利かなくなっている。

それは仕方がないが、健康には気を付けたいものである。

ある奉仕団体ではがん予防を訴えている。なんと男性は二人に一人はがんになる様である。

がん予防のポイントは健全な生活と早期発見であるそうだ。

がんにならないためには禁煙、節酒、ストレスの昇華等々である。難しい現代社会であるがスマートに生きたいものである。

がん（体の健康）の話だけでない。あらゆる事で若々しく生涯現役でありたいものである。

但し老害には気を付けたいものである。

経営者のロマンは色々あろうが事業の永続的な継続もその一つであろう。かなり以前の話であるが都会では後継者難で、その事例の一つに優秀な息子が都銀の支店長になり後継ぎとして戻ってくることが現実的に難しくなったという話があった。当時は妙に納得したものである。

今この時期を迎えて弊社も当面の対応はしているが長期的には他人ごとではなくなっている。せめて会社に経営者の思いと技術力のDNAを残したいものである。

5年前に5県4組合が合併して中国表面処理工業組合が誕生し図らずも理事長に推された。広域組合の良さの問題点を感じている。これはまたの機会で話すこととして、組合のみならず他団体でもよくあることであるが組合等の運営の

お世話がある。これらは大変な労力である。諸先輩のお陰で会員企業や個人として大きなお恩恵を頂いているはずだ。

それを次代では自分達が後輩に対して行う事が必要であろう。

ぶら下がっているだけではお神輿は上がらないのである。

それ以前にぶら下がっている（組合員であること）だけでもありがたいという現実は承知しているつもりである。

昨年人生を再スタートした。がんばれの声援を背中にもうひと踏ん張りと思っている今日この頃である。